

大ノ損害ヲ與ヘニ十三日敵ノ攻勢ハ頓挫セリ

イ四月十九日朝來漆川正面ニ猛烈ナル艦砲射撃爆發

ヲ開始シ沖合多數ノ艦船群破泊シ背面上陸ノ企圖ヲ呈

示ス。北方陸正面ニ於テハ陣地ニ侵入セシ戰車四十五

輛ヲ擱堆炎止セシムル。又陣地線著變ナシ

四四月二十日我陣地左翼方面ニ對スル敵ノ攻撃ハ遂次

進展シ夕刻ニ於ケル戰線ハ右突方面大ナル變化ナク

左翼方面ニ於テ伊祖田四高地漆川附近ニ進出セリ

八四月二十一日一四一高地ノ攻如ク。嘉敷ヲ確保シ敵進入

ノ都度之ヲ撃退ス。左翼方面ハ二十日夜夜襲ニヨリ伊

祖一四八高地線ニ進出セルモ全面的舊陣地ヲ奪回スル

ニ至ラズ

二四月二十二日二十三日攻防戰ヲ續行セルモ二十三日ニ至リ

敵ノ攻撃ハ頓挫ス

七 敵ノ第一回總攻撃ノ頓挫時ヨリ五月四日攻勢前迄

ノ軍ノ統帥

ノ四月二十三日敵ノ攻勢一應頓挫セルモ我第一線ノ戦力

亦遂次低下セルヲ以テ此處ニ第二十四師團全カヲ第六

十二師團ノ右翼ニ並列セントスル案軍參謀長ヨリ發議

セラレタリ。作戰主任參謀ハ依然三突基本配置ノ態勢

ヲ保持シ戰陣ヲ繼續センコトヲ主張セシモ軍司令官ハ

遂ニ參謀長案ニ同意シ第二十四師團ヲシテ二十四日ヨ

リ機動ヲ開始セシメ二十七日概ネ其ノ主力ノ機動ヲ完

了セリ。時後敵ハ一部ノ陣地ニ對シ蚕食的攻撃ヲ急セ

ルモ全般ノ大勢變化ナシ

二四月二十九日爾後軍ノ作戰指導ヲ如何ニスヘキヤニ関

シ幕僚會議開催セラル

其ノ狀況次ノ如シ

不戰局ノ見透シ

現態勢ヲ以テ推移セバ組織的作戰ハ五月十五日頃ヲ以

テ終焉スベシ

口彼我ノ損耗判斷

彼我損耗大ナルモ敵ノ消耗我ヨリ必ズシモ大ナラサルカ

如シ

ハ爾後ノ作戰指導

參謀長意見要旨

死中活ヲ見出スハ未ダ攻勢餘力ヲ有スル間(現在第二

十四師團主力、獨立第四十四旅團尚現存ス)敵第二十四軍

團ニ痛撃ヲ與ヘ戰勢ヲ挽回スルヲ要ス

作戰主任參謀ノ意見ハ右ト全然反對ニシテ飽ク迄軍守

防禦思想ナリ 悉ノミナラズ議論ノ言辭消極變遷ヲ

テ三遊敵ノ傾向アリ

他ノ參謀全員ハ數日乃至十數日ノ持久時日ノ延引ハ何

等戰略的意義ヲ有セズトナシ攻勢ニ同意ス

此處ニ於テ軍參謀長ハ軍司令官ニ決裁ヲ請ヒ遂ニ五月

四日總攻撃ニ關シ裁決セラル

三、攻撃計畫ノ概要

イ、第六十二師團ヲ以テ左翼支撐ヲ堅固ニ保持セシ

ム

ロ、第二十四師團ヲ以テ右翼正面ヨリ攻撃シ普天間

東西ノ線ニ進出セシム

ハ、獨立第四十四旅團ヲ以テ第二十四師團ノ攻撃進

受ニ伴ヒ大山方面ニ攻撃前進セシメ戦果擴張ラ
計ル

一 獨立第四十四旅団ノ成果ニ伴ヒ第六十二師団ヲ
以テ牧港方面ニ攻守ニ轉セシム

二 攻撃開始ハ五月四日トシ黎陽攻撃ニ依リ敵陣内
ニ攻入シ戦況ニ導ク

三 日英東西海岸ヨリ有カナル海上挺進隊ヲ派
遣シ敵ノ側背ニ上陸シテ之ヲ撓乱セシム

四 本件戦準備ハ比較的長時間ノ余裕アリシヲ以テ各
部隊ノ準備ハ順調ニ實施セラレタリ特ニ左翼支撐タル
第六十二師団方面ハ攻撃準備間或ハ敵ノ攻撃ニ依リ大
ナル圧迫ヲ受ケ破綻ヲ来スコトアルヘキヲ憂懼シ之ガ
對慮策ニ関シ準備スルトヨロアリシモ幸ニ斯ル狀況各

生セサリキ

註 右ノ如ク表面的ニハ順調ナリシモ軍參謀部内ニ
ニ於テハ積極果消極果相剋シツツアリ

即チ作戰主任參謀ヲ攻勢兵团タル第二十四師団
ニ對シ第一線攻勢兵力ニ大隙ト指示指導シ獨立

第四十四旅団ヲ配置ヲ第六十二師団後方ニ配置
シ攻勢失敗ノ際ノ牧拾態勢ヲ計畫的ニ實施シア

リタルニ對シ他人參謀ハ圪坤一擲ノ攻勢ニ際シ
戦力ヲ攻勢ニ使用スルコトナク失敗後ノ処置ニ

温存セシトスルハ不可ナリトシ單參謀長ニ具申
セル等之ナリ

八軍ノ航空戦力ニ期待スル思想ノ変遷

軍ノ航空戦力ニ対スル協力期待度ニ関シテハ依戦開始前ヨリ輕重意見已々ナリシモ彌々作戦開始セラレルヤ航空ニ期待スル觀念益々増大セリ其ノ期待ニ関スル思想ノ變遷左ノ如シ

1 敵船団ヲ洋上ニ撃滅センコトハ最モ希望スル所ナリシモ過去ノ戦歴ノ成果ノ爾リ大ナラサルヲ知ルヤ左ノ如ク陸海航空諸部隊ニ要望ス

上陸前ニ成可ク多数ノ船団ヲ攻撃スルト共ニ上陸ヲ支援スル戦艦巡洋艦群ヲ攻撃ス

右ハ海域ヲ限定スルコトナク航空部隊ノ最モ攻撃容易ニシテ戦果ノ大ナルヲ希望セル思想ナリ

2 戦力戦勢有利ナラザルカ又ハ我ヲ攻撃シ企圖スル

状況ニ於テハ東西海面ニ遊弋スル戦艦巡洋艦群ヲ
攻撃スル如ク要望ス。

右ハ支援艦艇群ヲ極大ニ有カナル直協軍砲兵集団ト
見做シ之ヲ撃滅スルコトニ依リ敵戦力構成ヲ破擯ス
ルヲ得且實質的ニ出血ノ効果ヲ担ハントスル思想ナ
リ。

3. 五月初頭ノ攻勢時期ニ於テハ寧ロ航空部隊ノ我攻撃
直接協力ヲ欲シタルモ航空部隊ノ攻撃能力ニ鑑ミ前
項ニ附加スルニ海岸附近運集積所ヲ爆碎シ地上
戦力ノ直接ノ根源ヲ杜絶セシメント要望セリ。
左諸要望ハ陸海軍ノ航空諸部隊ニ於テモ克ク了解シ之
ニ即應スル如ク其ノ作戦ヲ指導セシモ所無望ノ戦力之
ニ必スシモ追隨セズ殊ニ海軍側ニ於テハ對機動部隊作

戦ヲ重視センコト多キヲ以テ戦力消耗甚クシノ事ニ對

スル協力ノ実効果常ニ必シモ所期ニ達セザリキ

九攻勢開始ト中止ニ関スル経緯

1. 五月三日夜半海上挺進隊(約一〇〇〇名)ハ東西兩
海岸ヨリ割舟及ソノ線挺進ニ依リ敵側背ニ挺進ヲ
開始ス

2. 四五〇ヨリ約三十分ノ攻撃準備時射撃ヲ実施シテ

ル後〇五三〇攻撃兵團ノ一部ハ翁長東北方ノ地ニ突

入シ〇九三〇頃ニ至ルヤ概本上原棚原高地ヲ占領セ

3. 軍砲兵隊觀測所ヨリノ報告ニ依リハ敵ハ動搖
ノ兆アリテ自動貨車ニ依リ後退スルヲ望見スト。

4. 一五〇ノ第一線兵團ハ小那覇北側一〇一、三高地

南側一五六一八高地南側一五四高地附近ニ進出
セリ然レ共第二十四師團ノ一部ハ午後ニ至ルモ依
然小橋川津花坂兵屋附近ニ在ル旨ノ報告ニ接ス
ハ四日夜独立第四十四旅團ハ主力ヲ翁長幸地ノ線ニ
部ヲ棚原一四三高地ニ推進スルニ決ス
二四日午後ニ至ルヤ第一線ト後方トノ間ハ砲爆撃ニ依
リ遮断セラレ第一線大隊ノ状況明カナラス
軍司令部一部ニ於テハ敏感ニ暗黒ノ氣分アリ然レト
モ軍ハ依然決心ニ変化ナク依然攻撃ヲ續行スル如ク
指導ス

ホ五日朝迄ニ棚原北側一五四・九高地ニ進出セリ
2 攻撃中止ノ状況
イ五日朝第二十四師團ノ報告ニ依レハ其ノ歩兵力ハ

師團ニ於テハ一部攻撃成功ノ外二分一乃至三分一程
度ノ損害アリト此ニ於テ軍ハ依然其儘或ハ規模ヲ縮
少シテ攻勢ヲ續行スヘキヤ損害ノ状況ニ鑑ミ攻撃ヲ
中止スヘキヤニ関シ仔細ナル検討ヲ加ヘタル結果一
ハ〇〇攻撃中止ヲ命ジ旧陣地ニ於テ最後ノ出血作戦
ヲ敵ニ強要センコトニ決ス

註

攻撃中止ノ決心ハ一八〇〇ナルニ拘ラヌ第一線聯
隊ニ派遣セラレアリシ軍參謀ノ歸來報告ニ依レハ
攻撃中止ハ一六〇〇頃傳達セラレタリト
尚軍砲兵隊モ既ニ攻勢前ノ射撃ハ午後ニ至リ間モ
ナク中止シアリタリ
3 攻撃直後ノ状況

イ 七日朝迄ニ第二十四師團ハ概ネ旧陣地ニ態勢ヲ復

歸セリ

口 第二十四師團ノ報告ニ依レバ柵原ニ進出セル大隊ハ極メテ有利ナル戦鬪ヲ実施シ七日再ハ敵線ヲ突破シテ歸還シ損害僅カ數名ナリ
上原方面ニ進出セル部隊モ右ト概ニ同様ナリト
又海上挺進部隊ハ殆ド無血上陸シ有利ナル戦鬪ヲ実施シ且始メテ使用セシ戦車部隊亦前田高地ニ於テ四日経日有利ナル戦鬪ヲ續行シアリタリ

41

本報告ハ蓋シ五日ニ於ケル報告ト極メテ予循スルモノナリ 此ノ狀況ニシテ五日午後判明センカ必ズヤ攻勢ハ志氣旺盛ノ下ニ繼續セラレ幾多有利ナル戦勢ヲ現出シ得タルナルベキニ惜ムベシ軍ハ最後必死ノ

攻勢ニ方リ之ヲ過早ニ中止セシムルノ止ヲ得ザル運命ヲ辿レリ

42

十 首里最後ノ攻防ト南方地区戦線轉移ノ経緯

I 首里防禦態勢ニ関スル軍ノ見解ニ就テ攻撃中上後軍ヲ以テ飽ク迄翼ヲ張り後方部隊ヲ投入シツ、持久スベキヤ戦力ヲ集約シツ、首里周邊ニ圓形複廓陣地の態勢ヲ整備スベキヤニ就キ検討シ後者ノ敵ニ包圍態勢ヨリスル勝利感ヲ與ヘ天号作戰ノ主旨タル航空ニ依ル艦艇攻撃ヲ困難ナラシムル部署ヲ排シ前者ノ方式ニ依リ敵ヲシテ遠心的ニ力攻セシメ此ノ間艦船群ヲ吸引牽制シ天号航空作戰ヲ有利ニ續行セシメントスルニ決マリ

2. 此処ニ於テ特設聯隊船舶部隊海上挺進基地部隊貨物廠等ニ依リ臨時編成ス茲ニ海軍部隊ノ一部ヲ全面的ニ前方ニ推進シ戦線確保ニ努カス

五月九日再々敵ノ全線攻勢開始セラレタルニ幸地
 以東ハ主陣地ノ線以西ハ前田南方無名部落ノ経塚北端
 一安波茶西方高地ノ線ヲ確保シアリ内間ハ遂ニ奪取セ
 ラル

十日安謝附近ニ對シ敵ハ舟艇ニ依リ上陸ス十二日
 敵ハ即爾北方安謝附近ニ第六海兵師團ヲ投入シ我カ左
 眞嘉比迫シツ、首里ニ近迫シツ、アリ十三日終日天久
 比才台ノ高嶺町一宗元寺所一安里各北側台一眞嘉比西
 北嶺名高地附近ノ線ヲ保持シ敵ノ滲透攻撃ヲ阻止ス
 ハ、軍ハ敵ノ攻撃ヲ阻止シテ首里東西ノ線ノ確保ニ努
 カシタルモ十四日夜ニ至リ遂ニ擇岫及経塚附近平良町
 一大屯ノ未吉ノ線ニ後退整理ヤリ十五日敵ノ強圧ハ依
 然天方ヨリ即爾方面ニ指向セラレ独立第四十四旅團ノ

損害亦少カラス十七日早朝西原村一五〇高地ヲ奪取セ
 ラル十九日敵ノ攻撃ハ一敵ニ依調ナルモ戦線後方ハ依
 然活況ヲ呈シツ、アリ
 五月二十日ニ於ケル軍ノ戦力別表、如ク軍ハ戦力
 態勢ヲ整頓シ一層ノ劣血強要ニ努力スルノ方策ヲ考究
 シ二十日夕茲ニ島尻地區ニ戦線ヲ整理縮少スルニ決セ

別表

(一)

兵團	歩兵	其他	備
240	二六〇〇	三七六六	二四八五百十員 戦力激減シ兵数不詳ナリ
448	一六〇〇	二三四〇	其他トハ砲工馳重輸衛生肉保部隊ナリ
軍直		四〇〇〇	三歩兵中二八指揮下ニ入リタル他兵種部隊ヲ念ム
海軍		一〇四〇	
計	四二〇〇	二〇一〇	

考

更ニ別ノ調査ニ依ル兵員數概數左ノ如シ

別表

作戰開始前、給養兵額	七二〇〇〇
五月二十日迄ノ實情ノ戰死	二五〇〇〇
戰傷 行方不明 掌握不能	一三〇〇〇
掌握兵力	三四〇〇〇

火器彈藥數	九五門	作戰開始時、 六〇%
野砲以上	一〇〇門	
小口砲及迫撃砲		
Mg 砲	SA級 一基数 A級 六基数	30% 作戰開始時ハ 一會戰分
彈藥		

後方陣地ヘノ轉移ノ狀况

二十一日東海岸方面ヨリスル敵ノ滲透急ニシテ今
 ヤ投入之ヲ阻止シ得ヘキ戰鬪餘力無シ二十三日夜義烈
 空挺隊北中飛行場ニ着陸攻撃セルモ地上作戰ニ効果ヲ
 及ホスニ至ラス又天候不良ハ航空特攻攻撃ヲ以テ其ノ
 戰果ヲ擴張セシムルニ至ラス

二十三日頃ヨリ後方部隊ヲ逐次島尻地区ニ移動セ
 シムニ十五日第六十二師團ノ主力約二〇〇〇ヲ以テ首
 里地区ヨリ津嘉山東南方地区ニ轉用某給シ悪天候ヲ利
 用シテ逆襲ヲ實施シ軍主力ノ轉進ヲ容易ナラシムニ十
 九日軍主力ハ逐次南下ヲ開始シ有カナル一部及海軍部
 隊(小隊ニ於テ)ハ現陣地ヨリ新陣地ニ至ル間既設陣地ヲ利
 用シ徹底サル地域抵抗ヲ實施又三十日軍司令部ハ摩文

仁南側八九高地ニ移轉ヲ完了ス三十一日連日、雨ヲ冒シ敵空地ノ攻撃ノ行動活発ナルモ我砲兵及第一線ノ撤退ハ概テ順調ニ進捗ス殘置部隊ハ箱桶中程一喜屋武官平東側宮城一三八高地赤田山南側壹尾南側那霸南端ノ線ニ於テ敵ト接觸ス六月一日連日概テ態勢轉換ヲ終了セルモ敵ハ我力企圖ヲ察知セシモノ、如ク其砲爆撃ハ逐次花尾武半島方面ニ移行ス三日敵、追撃活発ナラス彼我接觸ノ線ハ概テ箱桶北側友寄長堂根差部ノ線ニ在リ各兵團遺棄死傷隊主力ハ概テ新陣地内ニ配備ヲ完了ス

十一 島尾地区首ノ終焉戰闘
I 六月四日五ロロ海軍舟楫地区タル小祿附近ニ敵上陸シ之ニ強圧ヲ加ヘツ、アリ五日敵ハ逐次島尾主陣地ニ近接ス具志頭ニハ約ニロロ、敵進歩セルモ一八ロ

ロ之ヲ擊退セリ八日夜殘置部隊タル歩兵第二十二聯隊主力ハ陣地内ニ撤收ヲ完了セリ十一日主陣地タル安里北側高地ノ爭奪激烈ニシテ又五日以來小祿地区ニ於テ奮戰中ナリシ海軍部隊トノ通信杜絶スルニ至ル十二日主陣地右翼ニ對スル敵ノ攻撃激烈ニシテ糸満西方海面ヨリスル敵ノ策應行動顯著ナリ即チ水陸兩用戰車三ロ道米里西北海岸ニ上陸ス十六日右翼獨立第四十四旅團方面ニ第六十二師團ノ残余兵力ヲ投入シ敵ノ突破ヲ封止スルニ努メタルモ敵ハ一五七六高地附近ニ滲透ス中央及左翼方面ハ依然主陣地ノ線ニテ死闘ヲ繼續ス
又 前頃ノ如ク軍ハ主力ヲ竭シテ最後ノ奮戰ニ努メシ又十七日ニ至リ軍ノ統一約戰闘困難トナリ各部隊ハ現位置ヲ固守シテ局部的戦斗ヲ續行スルノ止ムヲ得サル

ニ至リ軍司令官ハ十九日訣別ノ電報ヲ發ス二十日戰斗
ハ各部隊ノ所在地ニ於テ繼續シ第二十四師團ハ眞米里
東方高地眞壁北側高地附近ニ尚健斗中ナルモノ如シ
二十二日ニ到ルヤ軍ト各部隊及大本營間通信杜絶ス斯
ノ如クシテ作戰開始以來三月敵ニ多大ノ劣血ヲ強要シ
タルヲ第三十二軍ハ其ノ健斗持久ニ依リ本土作戰準備ニ
多大ナル貢獻ヲ爲シ神繩本島ニ終焉セリ

伊江島及國頭方面ノ戰斗

I 伊江島及國頭方面ノ配備並任務伊江島ハ步兵一大
隊國頭支隊指揮下及飛行場一大隊ヲ以テ伊江城山ヲ中核
トシ同島ノ警備ニ任ス國頭支隊ハ八重岳谷與岳名護岳
ヲ中核トシテ陣地ヲ確保シ執拗ナル撃戰ニ依リ軍ノ作
戰ヲ容易ナラシム

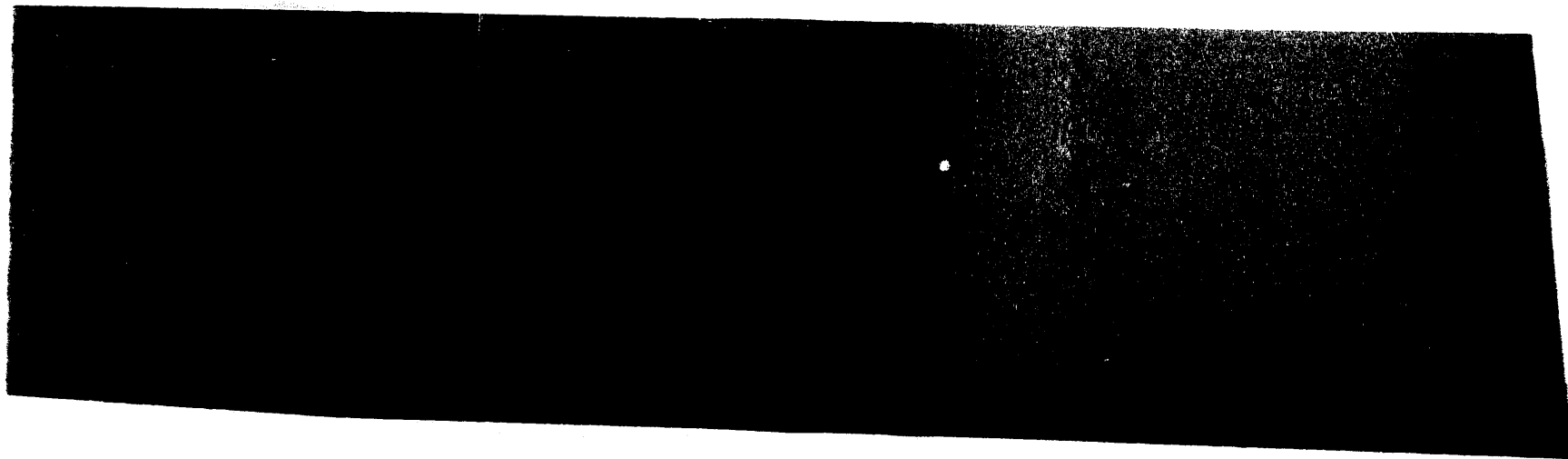
2. 伊江島四月十五日一〇〇伊江島南側水納島ニ敵
一部上陸十六日伊江島東南岸ニ水陸兩用戰車ヲ伴フ上
陸用艇約一〇〇ヲ以テ上陸ヲ開始ス十七日一二〇〇
迄ニ伊江島ニ上陸セル兵力戰車八〇兵員一〇〇〇ニシ
テ國頭支隊トノ連絡杜絶シ尔後全面的ニ遊撃戰ニ轉
セルモノノ如シ十八日伊江島トノ連絡確保シアルモ
低感十九日ニ到リ通信杜絶ス

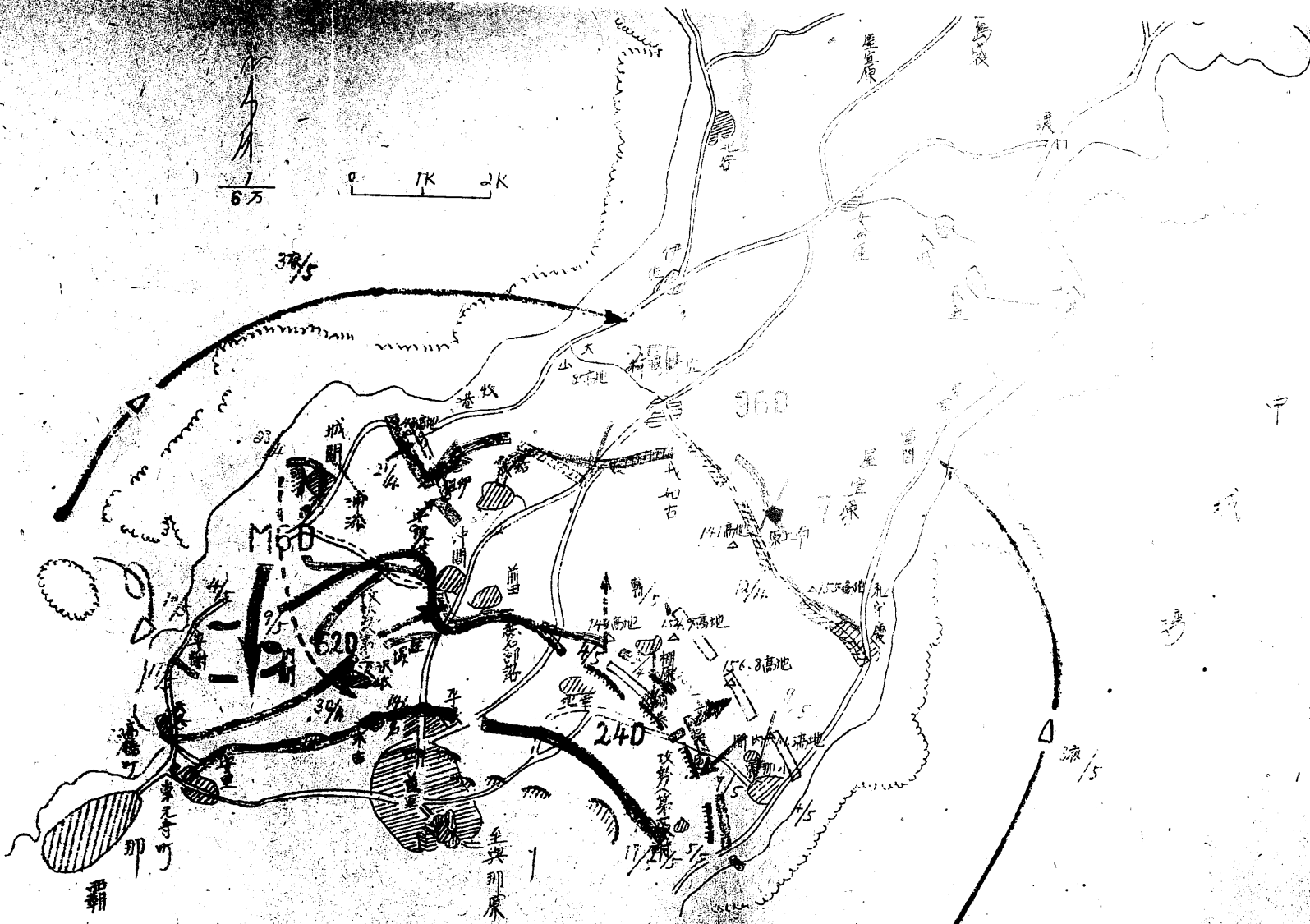
- 3. (1) 國頭支隊ハ十八日川田ヨリ更ニ國頭部ニ轉進同
支隊長ハ安救ニ向ヘルモ尔後ノ消息不明ナリ
- (2) 十八日第三遊撃隊約五〇〇名(谷名岳名護岳久志岳)第四
遊撃隊約四〇〇他ニ航空地区部隊其他及海軍部隊四〇
〇(恩想岳)ハ活潑ナル遊撃戰ヲ實施ス
- (3) 第十九航空地区隊長ハ同地区隊並第六十二師團被

立派な隊第十二大隊第一中隊ヲ作セ
シ部下ノ管理ニ努ム十八日頃ニ於テ國境地区
兵力約一七〇〇(推定)ニシテ全面的ニ遊撃戰ヲ實施シ
ツ、アリ

(三) 亦後輩ハ屢々連絡者ヲ派遣シテ同部隊トノ連絡ニ
努メタルモ交際ノ全貌ヲ把握スルニ至ラズ

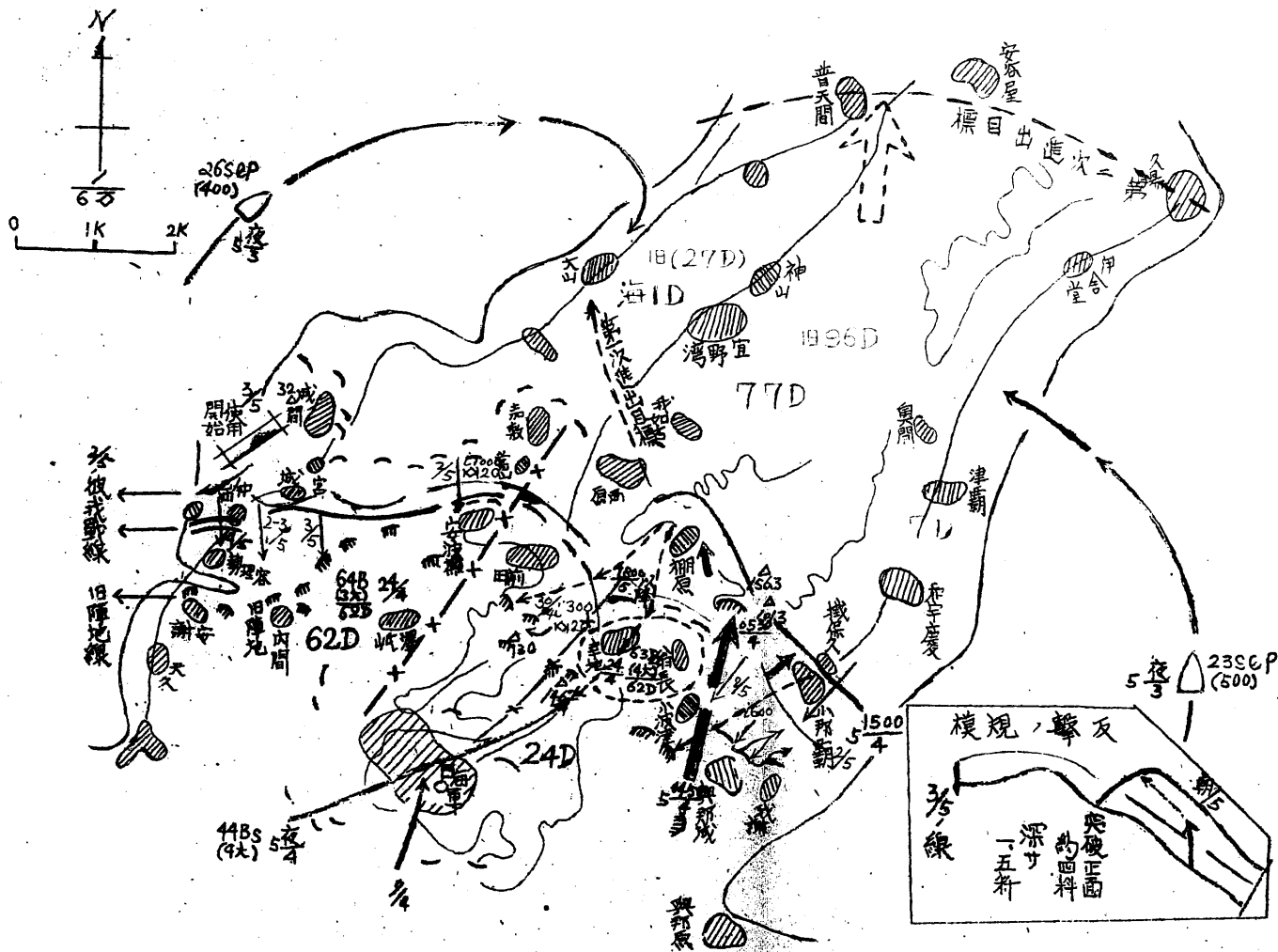
(ホ) 六月上旬國境方面遊撃隊ハ食糧自給ノ関係ニ依リ
一小隊乃至一分隊ノ兵力ヲ分散配置スルノ已ムナキニ
至リ且兵器ノ不足人員逐次ノ損傷等ニ依リ積極的戰斗
行動ニ出ツルモノ逐次減少セルモノ如シ



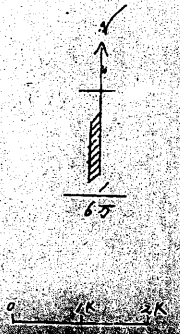


沖繩五日月五日戰開經過要圖

第四圖



附圖第五
沖繩作戰經過要圖



(1/5)
——
(4/6)

